

2020年度（令和2年度） 自己点検表

法務省入国管理局の定め通り、当校の活動状況について以下自己点検および自己評価を致しました。

点検及び評価項目については、法務省入国管理局が2016年（平成28年）7月22日に策定した「日本語教育機関の告示基準」第一条第一項十八号を参考に、当校で内容を検討した上で設定しました。

日本語教育機関名 仙台ランゲージスクール日本語科

設置者 株式会社S L S

点検日 2021年3月31日

大分類		評価項目			A	B	C
1	教育の理念・目標	1-1	学校の理念、目的・目標や育成する人材像が明確となっているか	○			
		1-2	その内容が社会のニーズに合致したものとなっているか	○			
		所見	当校は、外国人に対する日本語教育を行うと同時に、人材の育成を行い、相互理解を深め、以て国際社会の発展に寄与することを教育の目的とする。語学教育の他に日本のルールやマナー、文化等の学習の機会を生徒へ提供し、社会の発展に寄与する人材を輩出するべく、日々の教育に取り組んでいる。特に、今後ますます在留外国人の活動の場が多岐にわたると見込まれるため、学校としても柔軟性を持ちながら、社会が求める人材を育て上げていきたい。				

大分類		評価項目			A	B	C
2	学校運営	2-1	学校の運営体制が日本語教育機関の告示基準を満たしているか	○			
		2-2	学校の理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	○			
		2-3	組織運営や人事、財務管理に関する規定や意志決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか	○			
		所見	学校の理念を達成するため、基礎を重視した日本語教育を行うと同時に、日本社会での生活に必要なルールやマナーを学ぶ機会として、オリエンテーションを随時実施している。組織運営や人事においても、告示基準を満たした人員配置をしている。業務遂行の上で法的な問題の発生が予測される場合は、関係省庁や弁護士などの専門家の助言の元、コンプライアンスを順守している。				

大分類		評価項目			A	B	C
3	教育活動	3-1	教育理念等に沿った教育課程が体系的に編成されているか	○			
		3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確となっているか	○			
		3-3	上記項目について適切に運用されているか		○		
		3-4	教員の指導力向上のための取組、教育課程の改善のための取組が行われているか		○		
		所見	カリキュラムについては従来通り、体系的に編成されたものを基礎としながら進めたが、今年度は教育の機会を失わないために、オンライン授業を取り入れた。オンライン授業ではインターネットを活用しながら最新の情報を共有するなど、電子黒板で画面を見るような授業となった。従来の対面授業ではできない工夫も生み出すことができるなど、教師側でも新たな気づきを得ることができた。				

大分類		評価項目			A	B	C
4	学修成果	4-1	生徒の日本語能力の向上が図られているか	○			
		4-2	生徒の日本語能力について適切に把握しているか	○			
		4-3	生徒の進路を適切に把握しているか	○			
		所見	各定期テストや日本語能力試験に向けての模擬試験を通じ、教員で学生の弱いところを分析し、指導に生かしている。その結果が成果として現れていて、実際、日本語能力試験の合格率が前年度よりも上がった。生徒の進路については定期的にクラス担任が聞き取りをし、その内容を学生データベースで共有している。今後、会話力など運用能力が高められるような教育活動を強化したい。また、日本語力を定量的に評価する手法を検討していきたい。				

大分類		評価項目			A	B	C
5	生徒支援	5-1	生徒に対する学習相談や進路に対する支援体制が整備されているか	○			
		5-2	健康管理や日本での生活指導などへの支援体制が整備されているか	○			
		5-3	防災や緊急時における体制が整備されているか	○			

5	生徒支援	所見	担任制、進路担当制を敷いていて、内容によって学生が各担当に相談できる環境を作っている。相談内容に応じ、担当から校長に話を上げることで包括的な相談対応ができるようにしている。健康管理については年1回の健康診断に加え、体調不良を訴える学生を近隣の医療機関まで引率し、適切な治療が受けられるようサポートしている。今年度、コロナの関係もあり、学生が学校に出向く状況を制限する必要がある、またオンライン授業を取り入れたことから、学生のメールアドレス管理の整備を進めた。授業の連絡から緊急連絡まで、メールを効率的に利用した。また副次的にFACEBOOKなども活用し、様々な情報発信をするよう努めている。
---	------	----	---

大分類		評価項目	A	B	C	
6	教育環境	6-1	学校の施設・設備が十分かつ安全に整備されているか		○	
		6-2	教材は適切か	○		
		6-3	学習効率を図るための環境整備がなされているか	○		
	所見	オンライン授業を取り入れたことにより、ネット環境が時折不安定になることが認められた。それ以外のハード面については、環境整備は十分であり、施設・設備の不備による怪我などの事故は発生しておらず、現状は安全であるといえる。地震などへの備えも必要なことから、教室内や事務所内など、常に不安な個所がないかチェックを行っていく。教材はこれまでに実績のあるものを使用しているが、今後も教材研究を行うことで、学習効率の向上を図っていく。				

大分類		評価項目	A	B	C	
7	入学者の募集	7-1	入学者の募集は適切に行われているか	○		
		7-2	募集の際に学校情報は正確に伝えられているか	○		
		7-3	授業料等は適切か	○		
	所見	従来は海外での募集活動および面接を行っているが、今年度はスカイプ面接を取り入れた。1月入学生については在籍期間が短いこともあり、面接時の条件として日本語能力を高め設定した。授業料については、他校の金額も参考にしながら適切な金額を設定した。				

大分類		評価項目	A	B	C	
8	財務	8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか		○	
		8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか		○	
		8-3	財務について会計監査は適切に行われているか	○		
		8-4	財務情報の公開の体制はできているか	-	-	-
	所見	本校の収入は授業料収入が大部分であるため、生徒数に大きく依存する。生徒数は生徒の出身国の情勢や留学生に対する政策などに影響を受ける可能性があるが、今年度においてはコロナの影響が大きく、入国できなかった学生が大半であったために、予算・収支計画に大きな狂いが生じた。				

大分類		評価項目	A	B	C	
9	法令遵守	9-1	出入国管理及び難民認定法令及び各種関係法令等の遵守と適切な運営を行っているか	○		
		9-2	個人情報の保護の取組を適切に行っているか		○	
		9-3	自己点検の実施と改善及びその公開を適切に行っているか		○	
	所見	学生のビザ更新、ビザ変更、資格外活動の管理など、法に定められた通りに適切に管理運営を行っている。生徒の法令順守については、教職員間の情報交換を密に取り合い、問題が発生した場合は速やかに関係各所と連携して問題解決にあたり、同様な問題が発生しないように全校生徒へ対しても注意喚起を行っている。				

大分類		評価項目	A	B	C	
10	地域貢献・社会貢献	10-1	日本語教育機関の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献、生徒のボランティア活動への支援、公開講座等の実施などの取組を行っているか		○	
		所見	従来から地元大学の日本語教員養成課程の実習校として、教育実習生の受入を行ってきた。当校日本語教師養成講座でも、留学生の協力を得て教壇実習の場を提供している。最近では自治体から「やさしい日本語」の活用についての助言を求められるなど、日本語教育の枠組みを超えて、地域に貢献する機会が増えた。			

①目標の設定(Plan)⇒②実行(Do)⇒③評価(Check)⇒④見直し(Review)